

6. 中核機関活動の報告

(1) 事業体制の整備・運営

ア 中核機関の概要

中核機関である(財)科学技術交流財団は、「交流」をキーワードに、科学技術に関する研究交流、共同研究、中小企業への技術開発支援などを、産・学・行政の連携と協力により行い、科学技術研究を活性化させ、新しい科学技術を創出することにより、産業活動の発展と生活の質の向上に寄与することを目的に設立された機関である。

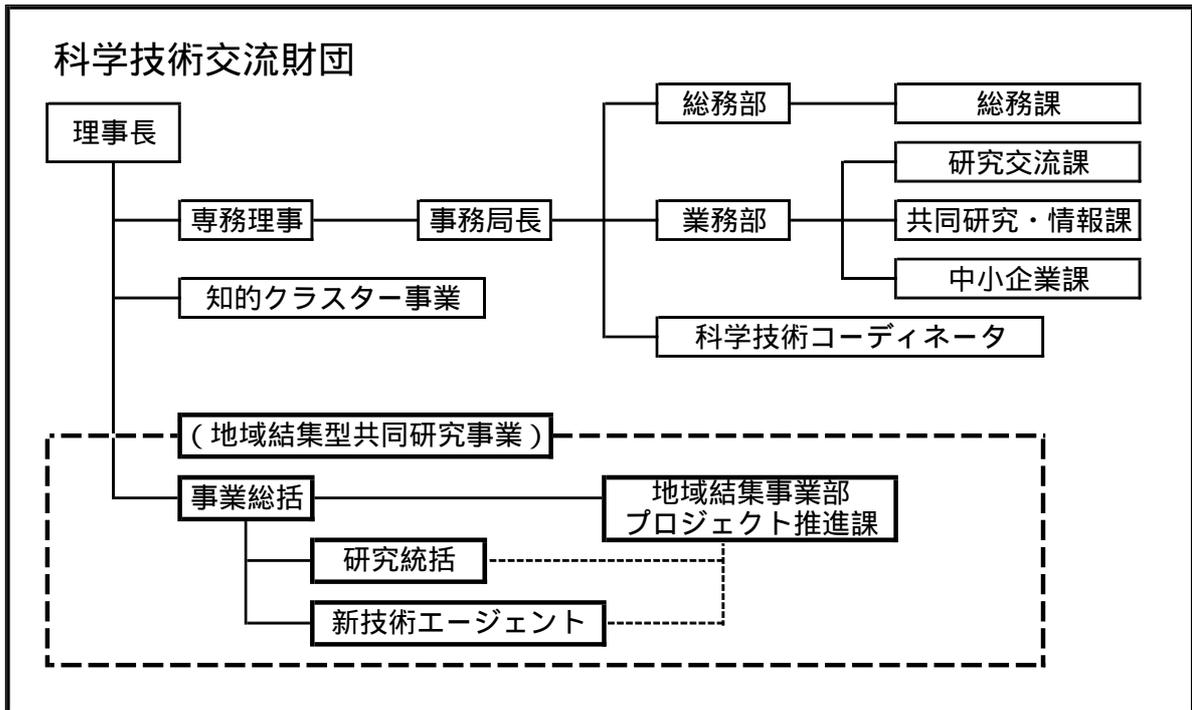


図9 財団法人 科学技術交流財団の組織

イ 事業実施体制

本事業を円滑に推進するため、中核機関である(財)科学技術交流財団に地域結集事業部を設置し事業部長等の事務総括スタッフ及び新技術エージェントを配置した(図9)。

研究推進体制の整備

本事業が産学官による共同研究であること、研究領域が「環境」であることなどを踏まえ、企業及び県から職員を配置し、総務・経理事務を始め事業総括・研究統括の補佐、研究員・研究機関及び(独)科学技術振興機構との連絡・調整業務を進めた。

また、平成12年の秋に事業目的の再確認とベクトル合わせを目的とした合宿研修を実施し研究体制強化に図ったほか、コア研究員の定例研究進捗報告会を毎月開催した結果、コア研究員同士の連帯感が深まり事業推進上、大きな効果をあげた。

各種契約の締結及び各種報告書の作成

(独)科学技術振興機構との業務推進契約、共同研究機関との共同研究契約、研究員の雇用契約等を行うとともに、実行計画、四半期事業報告書等の取りまとめを行った。

研究機能の整備

コア研究室に本事業の研究に必要な設備機器を整備した。

広報・普及活動

・成果報告会

平成13年度より毎年成果報告会を開催し、県内外に本事業の研究成果をPRした。これにより、本事業への理解・協力を得るとともに、成果活用の契機とした。

・展示会への出展

本事業の成果の普及を図るため、「ファインセラミックフェア」「産学交流プラザなごや」「テクノフロンティア愛知」「特許流通フェア愛知」「名古屋国際木工機械展」などにおいてパネル展示や成果品の展示を行うとともに、ホームページを開設して事業の概要、研究内容などを広く紹介した。

(2) 技術移転の支援

前述の展示会を通じて、新技術エージェントとも連携し県内企業への技術移転に努めた。

また、企業化・商品化を図るため、文部科学省の平成13年度地域科学技術振興事業費補助事業「都市系無機廃棄物の水熱固化を利用した製品の効率的生産のための最適粒度設計技術の開発（INAX）」「木質廃材を原料とするエンボス加工したマルチマットの製造（三幸毛糸紡績）」の助成を行った。

愛知万博への提案を新技術エージェントが中心となり、関係機関へ働きかけをし、「高温ガス変換技術」はNEDOから「2005年日本国際博覧会・中部臨空都市における新エネルギー等地域集中実証試験」事業を受託した。

また、「無機廃棄物の水熱固化体」「エンボスマット」については愛知県館周辺での採用が見込まれている。「木質成形体」においても中部9県合同パビリオンで展示が予定されている千年時計の歯車として採用が決定している。

愛知県エコタウン事業への展開については、新技術エージェントが関係者へ働きかけ、「木質系廃棄物の解繊素材を利用した低環境負荷・高付加価値マット製造設備」が内定した。

(3) 今後の展開

中核機関である(財)科学技術交流財団は、科学技術コーディネート事業を新設し、この事業のコーディネータを中心に結集型共同研究事業において関係した研究機関との連携を行っていく。

また、(財)科学技術交流財団が保有するスキルバンク及び研究者に関するデータベースを継承・発展させ、研究成果の事業化・実用化に向け蓄積された知識・技術の更なる向上を図っていく。